

ハタ類資源解析研究会

～参加者全員で盛り上げた研究会、その軌跡～

資源生産部 藻類・沿岸資源管理グループ 中川 雅弘

ハタ類は、市場価値の高い重要な沿岸資源であり、増殖を目的とした種苗放流も各地で行われています。しかし、資源動向や放流効果に関する知見が乏しく、ハタ類漁業の持続性を確保していくには、科学的根拠に基づいた資源解析とそれに基づく資源管理が必要と考えられます。このような状況を背景に、ハタ類の資源解析実現に向けた研究会の設置を関係機関よりご要望いただき、西海ブロック水産業関係研究開発推進会議地域増養殖研究部会の下部組織として、「ハタ類資源解析研究会」が平成27年度に活動期間を概ね5か年と定めたくて設立されました。



写真1 研究会で扱ったハタ類3種
(上からクエ、キジハタ、スジアラ)

研究会への参画機関

本研究会の事務局は西海区水産研究所資源生産部が務め、年1回の頻度でこれまでに5回開催しました。開催地は5回ともに山口県内であり、様々なご協力をいただいた同県の関係者の皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。北は日本海側では富山県、太平洋側では和歌山県から、南は沖縄県まで、西海ブロックを遥かに超えた広いエリアから5年間で延べ80機関119名の方が参加されました。このことは、ハタ類が関係府県の重要な漁業資源であることをよく示しています。

研究会での取り組み

本研究会では、参画機関の関心が高いクエ、キジハタ、スジアラを対象に選び、これらの資源解析に共同で取り組むための環境づくりとして、解析に必要なパラメータ類や関連する解析を簡便に行えるような様々な計算シートを用意しました。また、各地に分散する担当者が効率良

く検討を進められるよう、連絡体制づくりにも努めました。当初は、年齢と成長の関係、年齢と成熟率の関係、全長と体重の関係等について、保有する機関からデータを持ち寄っていただき、同じ魚種に関心を持つ機関との間で共有することを目指しました。各地先での漁獲状況等が反映された貴重なデータを他機関と共有することは、往々にして簡単なことではありませんが、研究会の活動を重ねることによって所属機関の異なる研究者間に仲間意識が醸成され、所属機関のご理解も得られた結果、徐々にデータが共有化されました。

研究会の成果

研究会の発足当時、対象の3種いずれについても資源解析に必要なデータがほとんど揃っておらず、最終年度に数機関での解析が実現すれば十分と個人的には考えていました。しかし、参加された各担当者の熱意が高かったことや、あらかじめ開催期間を定めていたことが功を奏して、資源解析を行うための必要最小限のデータが予想以上に順調に集まりました。この結果、最終年度までに延べ11機関（スジアラ1、クエ3、キジハタ7機関）という当初の予想を大きく超えた規模での解析が実現し、事務局としても大変喜ばしい結果となりました。

研究会を終えて

資源解析は、当然ながらコンピューターによる数値計算が中心になりますが、そのデータの収集や集計、解析は生身の人間が行います。所属機関が異なっても、同じ目標の下に集まっていたことで、良い意味での競争意識が働き、予想をはるかに上回る数の機関でハタ類資源解析を実現していただくことができたと考えています。今後も事務局としての役割は継続し、この研究会で出会ったメンバーとの出会いを大切にしながら、更なる資源解析の実現と精度向上に貢献して参ります。資源解析の最終目的は漁業者の利益向上のための資源管理の実現であり、それに向けた実践活動も今後の課題です。それについても、皆さんとの議論を続けていきたいと考えています。

発行：国立研究開発法人水産研究・教育機構
編集：国立研究開発法人水産研究・教育機構
西海区水産研究所
〒851-2213 長崎県長崎市多良良町1551-8
TEL 095-860-1600 FAX 095-850-7767
ホームページアドレス <http://snf.fra.affrc.go.jp>
本誌掲載の文章・画像等の無断転載を禁じます。